

プロの技術から学ぶ 電気工事施工講習を実施

「電気工事施工講習会」は7月4日、登米総合産業高校(大内栄幸校長、生徒590人)で開かれ、電気科1年の生徒36人が電気工事に携わる技術者から、講義や実習で技術を学びました。

講習会は、地域の電気工事業者と交流を深めることで、生徒の地元就職につなげたいと、登米電気工事事業協同組合青年部が企画。登米総合産業高校では、講習を機に国家資格の取得率向上を目指しています。参加した伊藤諒さん=東和町米谷8区=は「机の上での学習と違い、工事は慎重さが大切だと感じました。今日の経験を、今後役に立てたいです」と決意していました。



講習会では、配線から照明器具の設置まで実施。住宅の電気工事を想定し、図面を見ながら慎重に配線していました。

ゴール目指し一直線 長沼で河北レガッタ2000

第27回河北レガッタ2000(河北新報社・宮城県ボート協会・とめ漕艇協会・市主催)は6月29日から7月1日まで、長沼ボート場で開かれ、中学生から社会人まで62クルー178人が出場しました。

多くの観戦者が声援を送る中、選手らは掛け声を出しながら必死にボートを漕いでいました。佐沼中学校と佐沼高校の3年生は、今回が最後の大会。応援に来ていた佐沼高校ボート部親の会の大槻由香里さんは「暑い中よく頑張ったと思います。3年生が引退し、これからは1年生の多いチームになりますが、先輩たちのように頑張ってもらいたい」とエールを送っていました。



全力を出し切った佐沼高校ボート部の選手らはゴール後、悔いのない笑顔を見せていました。

建設中の道路を見学 建設中の県北道路見学会

「みやぎ県北高速幹線道路見学会」(猪股組・只野建設・木戸建設・大伸建設・宮城建設工業・日建工業主催)は7月18日、中田I C予定地で開かれ、宝江小学校(遠藤麻由美校長、児童120人)3、4年生36人の児童と地域住民が今年12月に開通予定の現場を訪れました。

見学会は、建設中道路の散策、建設機械体験や擬似的な事故現場を体験できるVR(バーチャルリアリティ)などを実施。参加した佐久間心夢さんは「パワーショベルの運転席はレバーがいっぱいあって操作が大変そうでした。普段できない体験ができて楽しかったです」と話していました。



建設中の道路を散策する宝江小学校の児童たち。工事中の道路に「すごい広いね」など、驚きの声が上がっていました。

文化活動の成果披露 市民文化祭で展示や発表

「第12回登米市民文化祭」(登米市文化協会主催)は6月30、7月1の両日、登米祝祭劇場で開かれ、約700人が鑑賞に訪れました。

ステージ発表は、2日間で35団体が舞踊やフラダンスなど、75演目を披露。展示発表は、絵画や俳句、陶芸など21団体が参加し、約200点の作品が展示されました。畑山信子さん=中田町神ノ木=は「作品やステージがどれもとても素晴らしかった。高校生がボランティアで来場者の誘導のお世話をしている姿を見て、市民みんなで作り上げた文化祭という感じがして、とてもいいですね」と感心していました。



作品展示やステージ発表により、市内の文化協会会員や児童生徒が、日頃の文化活動の成果を披露しました。

運送しながら市PR トラック協会と連携事業

「登米市シティプロモーションロゴマークステッカー一貼付トラック出発式」は7月19日、宮城県トラック協会登米本吉支部で開かれ、関係者など約20人が参加しました。

宮城県トラック協会登米本吉支部と連携し、ロゴマークステッカーを運送用トラックに貼ることで、市のPRやロゴマークのさらなる普及拡大につなげる取り組みです。後藤益美支部長は「トラックは毎日のように日本各地へ仕事に向かっています。ステッカーが多くの人の目に留まり、市の魅力を全国に発信していければ」と力を込めました。



市から協会へ直径約50mmのステッカーを300枚贈呈。ロゴマークステッカーが貼られたトラックが市内外を走り始めました。

熱戦続く柔道対抗戦 東北・北海道対抗戦開催

第71回東北・北海道対抗柔道大会(東北柔道連盟・北海道柔道連盟主催)は7月1日、迫体育館で開かれ、団体と個人の部で熱戦が繰り広げられました。

本大会は、毎年東北6県と北海道で交互に開催され、今回は12年ぶりに宮城県で開催。親子で観戦に来ていた鈴木聖一さん=栗原市=は「こういった本格的な柔道の大会を見に来たのは初めてです。小学生の息子が柔道を始めたばかりだったので、レベルの高い試合を見せたくて来ました。間近で見る大人同士の試合は、迫力が違いますね」と白熱した試合に舌を巻いていました。



一進一退の迫力ある試合に、大勢の観客が熱い視線を送っていました。